

令和8年度 目標設定書(学校教育課)

学校教育課長 岩瀬和也

1 当課の主な業務は次のように定義されます。		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への就学・転入学の手続き、児童生徒の保健衛生等に関すること ・学校の教育課程、学習指導、生徒指導、教職員の人事管理等に関すること ・教育に関する各種調査・統計に関すること 		
2 当課の業務は次の方々のために行われます。		
毛呂山町に住んでいる児童生徒とその保護者の方々のために。 また、学校教育にご支援ご協力をいただいている全ての町民の皆さんのために。		
3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。		
目 標 名	確かな学力と自立する力の育成	
指 標 名	全国学力・学習状況調査における教科ごとの平均正答率(小学生)	
数値目標	初期値(令和5年度)	国語58%(県68%) 算数54%(県62%)
	現状値(令和7年度)	国語58%(県68%) 算数46%(県58%)
	目標値(令和8年度)	令和8年度県数値
	最終目標値(令和11年度)	令和11年度県数値
設定根拠	第六次毛呂山町総合振興計画前期基本計画	
事業概要	各小中学校における指導方法研究等に「全国学力・学習状況調査」を活用し、学習指導における質の向上を図ります。	
4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。		
<p>「全国学力・学習状況調査」は、全国と毛呂山町の児童の学力や学習状況を把握し、児童生徒の1年間の学習成果や学校における学習指導の成果を確認し、授業改善に役立てることができます。</p> <p>毛呂山町学力向上対策委員会において、学力向上に効果のあった取組を分析し共有することで、指導内容の工夫や改善を図ることができます。</p>		
5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。		
<p>前年度の学力調査で課題となった学習内容、教員への意識調査で課題となった内容に係る授業改善を行いました。全体として、目標値である県平均正答率に達することはできませんでした。国語・算数とも県平均を大きく下回っています。国語については目的に応じて、必要な資料等を活用して「読むこと」、算数については「測定」「変化と関係」においてデータを活用して問題を解決し、説明することに課題がみられます。また、家庭学習の時間が、全国の平均と比べ、大きく下回っています。課題改善のための授業づくりに学校全体、中学校区、町全体で取り組む必要があります。また、授業や家庭学習でAIドリルを活用し、学力の定着を図っていくことが必要です。</p>		
6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。		
<p>学力向上対策委員会では、各学校に加え、各中学校区で学力調査を分析し、課題解決のために具体的な方策を立て、取り組みます。また、授業について、教員に加え、児童へも意識調査を行い、両者の意識の違いを捉え、授業改善を行います。国語、算数ともに資料を活用して問題解決し、表現することに重点をおいて授業に取り組むとともに、他教科の学習においても扱う内容であることから、あらゆる教科において、課題を意識した授業を行います。その際、答えだけでなく、答えの導き方について、指導するとともに、授業支援ソフトを活用して、協働的な学びを行い、他者の考え方を自分の考え方に生かして問題を解決することで、課題となる内容の改善につなげます。また、AIドリル、小学生ステップアップ教室において、個々の学習進度や理解度に合った個別最適な学習を行い基礎学力の向上に取り組めます。引き続き、小中一貫教育を推進し、乗り入れ授業や小中合同研修会等により、小中学校で情報共有することで、9年間を通じた学力向上に取り組めます。</p>		

令和8年度 目標設定書(学校教育課)

学校教育課長 岩瀬和也

1 当課の主な業務は次のように定義されます。		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への就学・転入学の手続き、児童生徒の保健衛生等に関すること ・学校の教育課程、学習指導、生徒指導、教職員の人事管理等に関すること ・教育に関する各種調査・統計に関すること 		
2 当課の業務は次の方々のために行われます。		
毛呂山町に住んでいる児童生徒とその保護者の方々のために。 また、学校教育にご支援ご協力をいただいている全ての町民の皆さんのために。		
3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。		
目 標 名	確かな学力と自立する力の育成	
指 標 名	全国学力・学習状況調査における教科ごとの平均正答率(中学生)	
数値目標	初期値(令和5年度)	国語65%(県71%) 数学41%(県52%)
	現状値(令和7年度)	国語50%(県55%) 数学43%(県50%)
	目標値(令和8年度)	令和8年度県数値
	最終目標値(令和11年度)	令和11年度県数値
設定根拠	第六次毛呂山町総合振興計画前期基本計画	
事業概要	各小中学校における指導方法研究等に「全国学力・学習状況調査」を活用し、学習指導における質の向上を図ります。	
4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。		
<p>「全国学力・学習状況調査」は、全国と毛呂山町の児童の学力や学習状況を把握し、児童生徒の1年間の学習成果や学校における学習指導の成果を確認し、授業改善に役立てることができます。</p> <p>毛呂山町学力向上対策委員会において、学力向上に効果のあった取組を分析し共有することで、指導内容の工夫や改善を図ることができます。</p>		
5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。		
<p>前年度の学力調査で課題となった学習内容、教員への意識調査で課題となった内容に係る授業改善を行いました。全体として、目標値である県平均正答率に達することはできませんでした。国語・数学とも県平均を大きく下回っています。国語については根拠を明確にして自分の考えを書いたり、話したりすること、数学については「図形」の証明問題に課題がみられます。また、家庭学習の時間が、平日、休日ともに全国平均を大きく下回る結果となっています。各学校で効果のあった取組を共有し、町全体の学力が伸びるように取り組む必要があります。また、授業や家庭学習でA Iドリルを活用し、学力の定着を図っていくことが必要です。</p>		
6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。		
<p>学力向上対策委員会では、各学校に加え、各中学校区で学力調査を分析し、課題解決のために具体的な方策を立て、取り組みます。また、授業について、教員に加え、生徒へも意識調査を行い、両者の意識の違いを捉え、授業改善を行います。国語では、文章の長短によらず、必ず根拠を明確にする書き方を、数学では、必要な条件を取捨選択して論理的に証明する方法を重点的に指導します。また、自分の考えを述べることについては、他教科の学習においても扱うことから、あらゆる教科において、課題を意識した授業を行います。その際、授業支援ソフトを活用して、協働的な学びを行い、他者の考え方を自分の考え方に生かして問題を解決することで、課題となる内容の改善につなげます。また、A Iドリル、中学生学力アップ教室において、個々の学習進度や理解度に合った個別最適な学習を行い基礎学力の向上に取り組みます。引き続き、小中一貫教育を推進し、乗り入れ授業や小中合同研修会等により、小中学校で情報共有することで、9年間を通した学力向上に取り組めます。</p>		